

第 1 回総括検討会での指摘事項に対する対応(案)

(1)全体計画について

	質問・コメント等	対応案
1	地域検討会と総括検討会を合同で行うことはないのか？地方自治体が共通調査について意見交換する場が必要。	地域検討会の検討員に、総括検討会のオブザーバ参加の案内を出すことにした。
2	総括検討会の後に意見交換してはどうか？	全体を通しての議論の時間を設けた。
3	12 月、2 月の日本海の調査はできないであろう	山形県飛島の調査は、地元と協議の結果、今年度は 2 回とした。
4	瀬戸内海の 1 回の調査で何をやるのか？	瀬戸内海の海底ゴミの分布状況を把握すること、瀬戸内海の海底ゴミの総量推定値の精度を向上することにある。
5	NGO との意見交換会も前倒しで実施してはどうか？	NGO との意見交換会では、本調査の進捗状況を報告したいと考えているため、来年 1 月前後が適切と考えている。なお、地域検討会では地元 NGO/NPO の方に委員として参加いただき、ご意見を地域の調査計画にインプットして進めている。

(2)概況調査

	質問・コメント等	対応案
6	航空機観測はいつ実施するか？出水等の影響があるのでは？	8～9 月の撮影に適した日に、7 県全てを撮影する予定であり、出水等のタイミングを考慮しての撮影は困難である。
7	既存衛星データの活用や、現地踏査の方が現実的では？ゴミが積み重なっているところはどう評価するのか？撮影時期は適当か？	航空機調査の結果、特にゴミが多い地点については、現地踏査でゴミの量を直接目視で確認することも検討する。
8	マップにどれだけ航空写真が使えるか、定量性に問題有り。	ゴミが漂着しているところ、していないところの把握が第一の目的。定量性の問題は、航空写真と現地踏査をふまえて検討したい。
9	概況調査により、モデル地域の代表性がなければ、地域を変更するのか？	モデル地域は各自治体の要望を受け、各地域での対策の緊急性、地域特性の違いを勘案した上で決定しており、明らかに調査の実施に支障がないかぎり変更しない。

(3)クリーンアップ調査

	質問・コメント等	対応案
10	分類リストに生物系をなぜ加えたか？ 海藻は別に処理するのか？利用するのか？ 海藻の有効利用の検討を。	現時点では処理を想定しているが、海藻押し葉、田畑の肥料、ウニ・アワビのエサなどへの利用ができるとのことなので、検討したい。
11	飛島のゴミを取りきれぬのか？作業員を確保できるのか？	1回で取りきれない場合は、何回かに分けて回収する。作業員の確保は、地元のNPOの方、地元の大学の協力を得て確保したい。
12	コドラートの外から入ってくるゴミにどのように対応するのか？	枠外の海岸にあるゴミが入ってこないよう、枠内の調査の後にできるだけ連続して枠外のゴミの回収を行う。
13	埋没ゴミも対象か？	埋没ゴミは対象外であるが、積み重なったゴミは対象とする。砂浜に埋まっているが、地面の上出ている部分があるゴミは対象となる。
14	ゴミの処理を地方自治体に依頼することを予定しているが、これは事業=産廃なので地方自治体に協力義務があるのか？	本調査で回収した漂着ゴミは、性状に応じて事業系一般廃棄物と産業廃棄物に分類し、各自治体と相談しつつ、廃棄物処理法に従い適正に処理していきたい。
15	細目に分類して、それぞれの発生源がわかり、それらが今後の方策に繋がるのか？	発生源の検討は、特定のアイテムに絞る予定である。
16	これほどの細目に分類する必要があるのか？	NPECの分類をベースとしつつ、JEANの分類にも対応できるようにしたい。
17	1cm以上のゴミをすべて取りきれぬのか？	共通調査においては、基準を設定するため1cmとした。独自調査においては、地元と協議しつつ、どこまで細かいごみを回収出来るか検討していきたい。
18	重機の選定はどうするのか？	基本的には地元で調達できる重機を中心に選定する。

(4)フォローアップ調査

	質問・コメント等	対応案
19	特定のアイテムに絞って解析してはどうか？	対象とするゴミは絞り込む予定である。地域によって異なる可能性がある。
20	漂流ゴミの移動は早いので、2ヶ月の調査インターバルは漂流時間を知るには長いのでは？	定点観測で補完する。観測点の代表性の確保が課題。
21	後背の植生に入り込んだゴミはどうするのか？どこにゴミがたまっているか把握してほしい	特別にゴミがたまっているところだけ、目視で確認する。

(5)その他の調査

	質問・コメント等	対応案
22	実際にペットボトルの放流が可能なのか？	関係法令を遵守して適切に実施していきたい。
23	国民の海ゴミへの認識が薄いので、1年目の成果を活用して、全国版の海ゴミシンポジウムを検討してほしい	流域ワークショップの開催検討のなかで、全国規模のワークショップについても検討する。
24	ペットボトルは空か？発信機をつけると空のペットボトルとは見なせない。	シミュレーションの際に沈下率を考慮することを検討する。
25	流れ藻の解析から発生源がある程度、把握できるのでは？	キレバモクやトサカモクのように、生息域が日本南方の一部に限られているものは発生源の推定に利用できる可能性があるが、種の同定が難しい。DNA解析もあるが、費用面も考慮して検討する必要がある。
26	生分解性ペットボトルのメーカーを紹介可能。	兼広先生にご相談し、メーカーを紹介いただいた。

(6)数値シミュレーション

	質問・コメント等	対応案
27	平均的な場のシミュレーションと、放流ペットボトルとの比較のための計算を区別して行う必要がある。後者には放流時の気象・海象データを。伊勢湾では河川からの淡水流入による密度流が効くであろう。	流動シミュレーションの結果は平均場で検証する。漂流シミュレーションの結果は、今回の調査結果を用いて検証する。
28	ほぼ水面に浮いているペットボトル以外にも、漂流物を想定してもいいのでは？	今回は、一般市民になじみの深い、生活系のゴミであるペットボトルを対象とする。広報活動にも有効であろう。

(7)対策の方向性(目標設定)

	質問・コメント等	対応案
29	地域での自律的・継続的なゴミ回収の体制を作ることにについてどのように考えているか？ 調査員への教育・啓蒙活動も、地域の体制作りの一環となるだろう。	調査員へは、調査方法の説明だけでなく、調査の目的も含めて説明したい。地域の事情に即した体制を検討したい。
30	漂着した海藻が環境教育の教材(乾燥海藻)となるであろう。海への関心を高めることが海ゴミを減らすことに繋がる。	漂着した海藻を使って、海藻押し葉が作成できる。一般の方の漂着ゴミ回収への参加を促すため、メニューの一つとして検討したい。
31	効率的なゴミ回収を目指しているようだが、計画にはその検証作業が盛り込まれていない。	H19の結果を踏まえて、手法の見直しを行う。
32	海洋基本法に基づく基本計画に、漂流・漂着ゴミ問題をどのように加える予定か？	本件については、内閣官房総合海洋政策本部が我が国の海洋政策全体を俯瞰して定めるものであり、来春までに策定されるものと聞いている。